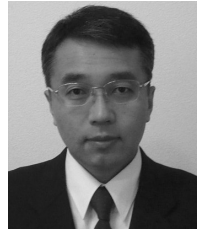


## Genius English Course I,II Revised

### 完了形の指導について



竹内正宏

#### ■英作文の指導から

毎年、センター試験が終了すると、大学の個別試験に向けた3年生の英作文指導が本格化します。「完璧な」英作文は（筆者自身がそれを示せるレベルでもありませんので）当然最初から期待はしていませんが、できるだけ「赤」を入れる手間を省こうと、毎年次のような指示を行ってから始めています。

(1) わかりにくい〔訳しにくい、長い〕日本語は、自分なりの英訳可能な日本語に説明的に分断（いわゆる「和文和訳」）してから書き始めること。その際、日本語の句読点を、英語のカンマやピリオドに一致させる必要は普通はないこと。

(2) 次の構造を多用しない（できれば用いない）こと。

- ・過去完了形（英語力の高い生徒の作文によく見られます。）
- ・受動態（自由英作文時の元原稿や、問題文の日本語にこの構造が多用されています。）
- ・I think ...（無用の場合がほとんどです。）

(3) 逆に次の構造・語をうまく使うこと。

- ・現在完了形（「なる、いる」表現の多い日本語では利用頻度は比較的高くなります。）
- ・some, someone, something など（上記同様、非明示的な表現の多い日本語に対し用います。）

(4) ケアレス・ミスティブの類に注意すること。

- ・If, It など、使用場所を無視した I の大文字使用など。

#### ■完了形の習得が未完了？

前置きが長くなってしまいましたが、入試の英作文は、高校の英語学習の最後のアウトプットとも言え、その中で特徴的に見られる誤りに関わる文法事項は、早期から繰り返し指導しておく必要があると言えます。

日本語が伝えている内容を正確に消化するというハードルが高いせいなのかもしれませんが、ここでは敢えて、多々ある誤りの中で、完了形や進行形といったアスペクト（相）に関わる事項が特に未定着であると考え、その指導の工夫を考えてみたいと思います。

#### ■Genius I Revised, Lesson 3 から

最初の例は、適切な時制と相の組み合わせを個々の動詞に当てはめて、筆者が伝えようとしているニュアンスの違いを感じ取らせるものです。TASK: 文章全体の流れに注意して、下の表を参照しながら、（ ）内の語を適切な形にしなさい。三単現の -s の必要の有無も考えること。

表：動詞の表現形態（主語をyou, 動詞をwaitとして）

You	現在時制	過去時制
単純形	wait	waited
進行形	are waiting	were waiting
完了形	have waited	had waited
完了進行形	have been waiting	had been waiting

In the evening, Finda returns home along the same long road. She ①( say ) that the branches along the way “look like witches’ hands” and make her afraid. She ②( be ) always happy to see the first of the village huts. She ③( see ) her father, and he ④( come ) to meet her with a light. As usual, he ⑤( wait ) at the edge of the village for her to arrive.

Her father, Papa Tolno, is a proud man. Now he ⑥( be ) a rice farmer. When he ⑦( be ) young, he ⑧( fight ) in the Algerian War and ⑨( have ) many experiences. He ⑩( live ) in a village with no schools. He ⑪( want ) to study, but never ⑫( have ) the chance. He ⑬( want ) Finda to do better. He often ⑭( say ) that education is a passport to discovery. If she does not study, he says, she will spend her life like a “wounded panther.”

以下が教科書の表記です。

① says ② is ③ sees ④ comes ⑤ has been waiting  
⑥ is ⑦ was ⑧ fought ⑨ had ⑩ had been living  
⑪ had wanted ⑫ had ⑬ wants ⑭ says

いかがでしょうか。⑤, ⑩, ⑪が必ずしも完了(進行)形である必要はありませんね。しかし、表記のようにすることで、(例えば⑩により、「当時の居住地が一時的であった」といったような)微妙な意味の差異を伝えることができる、ということを生徒に説明できます。反対に、前述の英作文に関わる指導のように、そこまでのニュアンスを伝える必要がないのであれば、完了(進行)形を用いる必要もないという、反面的指導も可能です。う。(むしろこちらの方が効果的でしょうか。)

## ■ *Genius II Revised*, Lesson 9 から

次の例は、「助動詞+完了形」に関するものです。  
TASK: 文章全体の流れに注意して、( ) 内の語を適切な形にしない。

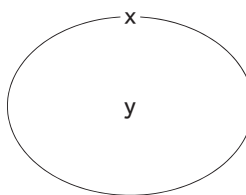
In Africa, when giraffes or other large animals eat acacia trees, the newly eaten leaves send out an SOS to the rest of the trees. Within 30 minutes, levels of tannin, a bitter-tasting chemical in the leaves, may ①( double ). To avoid being poisoned, the animal has to move away. But it can't ②( eat ) nearby acacias because their leaves will ③( receive ) a wind-borne message and they will ④( increase ) the amount of their tannin to poisonous levels too.

以下が教科書の表記です。

① have doubled ② eat ③ have received  
④ have increased

ここでは、①については、文中の Within 30 minutes が、③, ④については、it can't eat が、「タンニンレベルの倍増」、「メッセージの受信」、「有毒レベルまでのタンニン量の増加」の完了を要求しているため、それぞれに完了形を用いる方が適切である、というような説明が可能です。

## ■ 新感覚の完了イメージ



「英語感覚が身につく実践的指導—コアとチャプクの活用」(pp. 86-91) には、x have y. について左のようなイメージ

が示されています。I have talked to him. のような現在完了形の文でも基本は同じで、y が talked to him などの「すでに行われた事柄」になるだけで、それを「今持っている (= 経験している)」と考える、と説明しています。従来の「完了・結果」、「経験」、「継続」という分類に基づいた説明では理解しにくかった学習者にとってはわかりやすい説明ではないかと思います。この「感覚」を過去完了や未来完了にも適用できれば、完了形の習得もずいぶん楽になるかもしれません。

(たけうち まさひろ・新潟県立新潟南高等学校教諭)